

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

時代を切り拓く「生きる力」、地球規模で物事を考え、自分の考えを発信し、国際社会や地域社会において活躍・貢献できる骨太な人材を育成する学校
人間の尊厳について深く理解し、豊かな人権感覚をもつ知・徳・体バランスのとれた人を育てる学校

1. 高い志、主体的かつ真摯に努力し続ける力を育む。
2. 基礎的な知識及び技能と、これらを活用し課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。
3. 批判的に考える力、説明し議論する力、豊かな人間関係を構築できる力、高い市民性・創造性を育む。
4. 高度で専門的な学びを深化させる意欲と、そのための基礎的知識・スキル、生涯にわたる探究心を育む。

2 中期的目標

1 学びの切磋琢磨

(1) 両学科の指導方法を活用し、全ての生徒が文系・理系両方の基礎学力を着実に身につけるよう指導する。

ア 全ての生徒の学力の底上げを図る。

教材・資料、基本となる指導方法について、教科において統一・共有化を進める。

双方向的学習に努め、実験・実習等を多く取り入れるとともに、ICT・VOD・視聴覚機器を積極的に活用する。

イ 生徒が自学自習の習慣を身につけるとともに、その効率と効果を高めていけるよう指導方法を工夫改善する。

宿題や課題の質を高める。タブレット端末を利用し学べるコンテンツを研究開発するとともに充実を図る。

※ 3年後、学力診断テストにおいて、下位層の15%減、上位層の15%増をめざす。

(2) 専門分野における探究力を高めるとともに、グローバル・リーダーに必要な言語活用力、プレゼンテーション能力・語学力を両学科とも向上させる。

ア 専門分野における探究力を高める。

研究指定を活用し、課題研究に係る指導プログラムの研究開発を進め、質の高い課題研究が行えるよう取り組む。

両学科ともに、研究者・企業関係者等との連携を進め、適宜、評価・助言を受ける。

イ 全ての教科指導のレベルの底上げを図る。

双方向的学習、実験・実習、ICT・VOD・視聴覚機器の活用に取り組む。

学校全体として授業研究を進め、他校のすぐれた実践例の研究や公開授業等を行うとともに、知見を共有し授業の水準を高める。

※ 保護者による授業見学アンケート結果を毎年度向上させる。

ウ 両学科とも言語活用力やプレゼンテーション能力・語学力を向上させる。

・ 校内外研修、語学研修、国際教育、国際交流等に積極的に取り組むとともに、質の向上を図る。そのための指標づくりを行う。

・ 両学科とも、論文をはじめとする様々な形態のプレゼンテーションを行う機会を増やし、質の向上を図る。

※ 3年間で国公立大学進学者の15%増、毎年度研究発表の全国大会等出場をめざす。

2 高い志、豊かな感性、互いを尊重する精神を養うとともに、たくましく生きるための健康と体力を育む。

ア 高い目標を掲げ取り組むとともに、相互に協力・努力することの大切さについて学べるよう指導する。

・ ふだんの授業、ホームルーム、生徒会やクラブ等の自主活動、行事、探究力育成の指導等全ての活動において取り組む。

イ 違いを認め共に生きる力、紛争を解決する力を向上させるとともに、自分と人びとを大切に思い、社会に役立つとする気持ちを育む。

・ 特にホームルーム指導や人権学習において計画的に指導するとともに、生徒の状況を的確に把握し、指導方法の工夫改善に努める。

・ 創立50周年事業の充実に向け取り組むとともに、社会貢献に取り組む人々たちによる講演や交流を行い、卒業生との連携協力を強める。

・ ICT機器・情報端末等を正しく活用できるようICT機器活用ルールをまとめるとともに、計画的に研修等を実施し指導する。

3 全ての生徒がそれぞれの進路希望を実現できるよう取り組む。

(1) 3年間を見通した総合的な指導計画（学習指導・進路指導・生活指導等）を策定し、教職員・保護者・生徒で共有し、それをもとに指導・支援する。

ア 指標を明確にし、生徒の学力の状況や、学校生活・進路・人権等に係る意識等について適宜的確に把握し、指導・支援の工夫改善を行う。

イ 土曜日の補習・講習等を計画的に、また、生徒のニーズにあうよう実施する。学校全体としてそれを有効に活用できるよう校内体制を整備する。

(2) 知・徳・体のバランスの良い生徒を育てる。

ア 部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導を行うとともに、そのための教職員間の連携協力を強める。

イ すべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導・支援するとともに、成果について評価・顕彰する。

ウ 学校全体として、特に時間管理、挨拶の励行、整理整頓の指導にしっかりと取り組み、生徒が自己管理能力を高めるよう取り組む。

4 教員の指導力の不断の向上に努める。先進的な国際教育・科学教育に取り組むための校内体制の確立をめざす。

学習、進路、生活あらゆる面における指導方法について質を高め、工夫改善を推進できるよう、研究指定等を活用し、学年・分掌・教科間連携を強め、校内体制を整備する。また、生徒情報の共有を図り、教育相談機能の強化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
問「学校に行くのが楽しい」に対する肯定的回答は82%であり、継続して80%を上回る。「この学校のおおの学校のおい 特色がある」「入学してよかった」への肯定的回答がそれぞれ92%・76%(昨年度93%・82%)。多数が学校生活や本校の特色を肯定的に受けとめてくれている。向上をめざす。「私は授業の準備(宿題・予習・復習)をしている」への肯定的回答は55%(昨年度60%、一昨年度56%)と低い。家庭学習、予習・復習時間確保が課題。わかりやすく質の高い授業づくり、家庭連携等を推進する。	第1回(6月18日(木) 15時00分～16時30分) 校長より教育方針説明後、協議。 ○ 生徒の進路希望を実現できたかどうかについて把握できる方策を検討を。 ○ 発達障がい等に係る教員の理解の状況について、学校の取組みについて説明。 第2回(11月12日(木) 15時00分～17時10分) 校長より進捗状況説明後、協議。 ○ 家庭学習時間の把握について工夫するとともに、向上のための取組みの検討を。 ○ キャリアパスについて展望できるよう取組みの検討を。 第3回(2月4日(木) 13時30分～15時)実施予定 ○ 取組み概ね評価。今後地域連携による生徒支援、論理力育成等について助言受けた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学びの切磋琢磨	<p>(1) 両学科の指導方法を活用し全生徒が文・理両方の基礎学力を身につける。 ア全生徒の学力底上げ。 イ自学自習習慣を身につけ効率と効果を高める指導方法を工夫改善。</p> <p>(2) 専門分野における探究力を高め言語活用能力やプレゼンテーション能力・語学力向上。 ア専門分野における探究力向上。 イ全ての教科指導のレベルの底上げ。 ウ言語活用能力やプレゼンテーション能力・語学力向上。</p>	<p>(1) 企画調整会議が関係組織と連携し推進。 ア全ての生徒の学力の底上げを図る。 基本となる指導方法について、教科において統一・共有化を進める。 双方向的学習に努め、実験・実習等を多く取り入れる、ICT・VOD・視聴覚機器を活用。 イ生徒が自学自習習慣を身につけるとともに効率と効果を高めるよう指導方法を工夫改善。 宿題や課題の質を高め、タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発・充実。</p> <p>(2) 企画調整会議内に課題研究(「探究」「科学探究」) ・言語活用能力等を高めるワーキンググループ設置。 ア専門分野における探究力を高める。 ・課題研究の指導プログラムの研究開発。 ・外部人材と連携、評価・助言を受ける。 ・中間発表時等における両学科間の交流。 イ全ての教科指導のレベルの底上げを図る。 ・双方向的学習、実験・実習、ICT・VOD・視聴覚機器を活用。公開授業、知見の共有。 ウ両学科とも言語活用能力やプレゼンテーション能力・語学力を向上させる。 研修・国際教育・国際交流・地域連携推進。 ・生徒の様々な形態のプレゼンテーション実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導方法の統一・共有化(前年比10%増 (H26 69%) ICT 機器活用アンケート結果。前年比10%増 (H26 78%) 「授業で学力をつけることができる」85% (H26 77%) 学力診断テスト 下位層5%減 上位層5%増(新規) 課題研究充実。「『探究』は役立つ」80% (H26 75%) 授業研究ワーキング主催、研究授業実施。(5回) 国公立大学進学70人(現役(新規)) 海外大学進学者2名以上 校内研修満足度90% (H26 80%) TOEFL スコア目標 80点以上6人 (H26 1人) 60点以上15人 (H26 7人) 45点以上40人 (H26 9人) 海外研修4回実施。 校外プレゼンテーション参加数40人以上(H26 30人) 	<p>→(○) 指導方法の統一・共有化79%</p> <p>→(△) ICT 機器活用 82%</p> <p>→(△) 「授業で学力をつけることができる」76%</p> <p>→(○) ※ テストは民間教育団体作成のもの。英数国下位層 0.3%増 上位層 4.8%増。(2年) 同 下位層 0.6%減 上位層 9.6%増。(1年)</p> <p>→(△) 「『探究』は役立つ」73%</p> <p>→(○) 授業公開週間新規実施した。5月25~29日 研究授業2回実施。10月19日、10月30日。この他校外より授業見学多数受入れました。</p> <p>→(△) 国公立大学進学者43名 ※3月9日現在</p> <p>→(○) 海外大学合格者2名</p> <p>→(○) 校内研修満足度(SGH 夏期集中講座) 80.6%</p> <p>→(○) 「骨太の英語力養成事業」目標値と達成度 目標値40点以上全体の30%。目標達成しました。(△)左記目標の達成度 →向上をめざします。80点以上4人、60点以上9人、45点以上30人。</p> <p>→(○) 海外研修(2回)、オーストラリア、ニューヨーク等実施。</p> <p>→(○) 41人。SSH 生徒研究発表会、阪大・京大 グローバルイノベーション、関学リサーチ等</p>
高い志・豊かな感性・互いを尊重、健康と体力育む	<p>ア高い目標、相互の協力・努力の大切さについて学ぶ。</p> <p>イ違いを認め共に生きる力、紛争を解決する力の向上、自他を大切に思い社会に役立つとする気もち育成。</p>	<p>(1) 学年・教務部・進路指導部・国際・科学教育部が連携し年間計画策定し取り組む。 ア高い目標を掲げ取り組むとともに、相互に協力・努力することの大切さについて学べるよう指導。 普段の授業、ホームルーム、生徒会やクラブ等の自主活動、行事等において、また、探究力育成の指導等、全ての活動において取り組む。</p> <p>(2) 学年・人権教育推進委・生指部・保健部・生徒会・国際・科学教育部が連携し取り組む。 イ違いを認め共に生きる力、社会に役立つとする気もちを育む。 HRや人権学習等において計画的に指導。 各界専門家講演、卒業生との連携協力推進。 ICT 機器・情報端末等を正しく活用できるようルール策定し、計画的に指導。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)アンケート 「将来の進路や生き方について考える機会がある」85% (H26 82%) 「家庭学習時間を確保できている」70% (H26 60%) 人権生活意識調査「人権問題への関心度」60% (H26 45%) 学校教育自己診断(保護者)アンケート 「将来の進路や生き方について考える機会がある」85% (H26 82%) 	<p>→(△) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」78%</p> <p>→(△) 「家庭学習時間を確保できている」61%</p> <p>→(○) 「人権問題への関心度」55% 前年度比10ポイント増。28年度向上をめざします。</p> <p>→(△) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」78%</p>
全ての生徒の進路希望実現	<p>(1) 3年間を見通した総合的な指導計画策定し、教職員・保護者・生徒が共有。</p> <p>(2) 知・徳・体のバランスの良い生徒の育成。</p>	<p>(1) 3年間を見通した総合的な指導計画(学習指導・進路指導・生活指導等)を策定、教職員・保護者・生徒で共有し、指導・支援する。 ア生徒の学力の状況や、学校生活・進路・人権等に係る意識等について適宜的確に把握し、指導・支援の工夫改善を行う。 イ土曜日の補習・講習等計画的でニーズにあうよう実施、有効活用のため校内体制整備。</p> <p>(2) 知・徳・体のバランスの良い生徒を育てる。 ア部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導。 教職員間の連携協力を強める。 イすべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導・支援、評価・顕彰。 ウ学校全体として、特に時間管理、挨拶の励行、整理整頓の指導にしっかりと取り組み、生徒が自己管理能力を高めるよう取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した学校生活充実に係る総合的な指導計画・成果指標作成。 学校教育自己診断アンケート 「悩みや相談に応じてくれる」65% (H26 55%) 「学校に行くのが楽しい」90% (H26 86%) 「家庭学習する時間を確保できている」70% (H26 60%) 「授業で力をつけることができる」85% (H26 77%) (再掲) 	<p>→(◎) 生徒カルテ完成。1~3学年において、懇談会等において活用。</p> <p>→(○) 「悩みや相談に応じてくれる」60% (△) 「学校に行くのが楽しい」82%</p> <p>→(△) 「家庭学習する時間を確保できている」61%</p> <p>→(△) 「授業で力をつけることができる」76%</p>
教員の指導力の向上	<p>ア学習、進路、生活等指導方法の質を高め工夫改善。 イ教育相談機能の強化</p>	<p>ア学習、進路、生活あらゆる面における指導方法について質を高め、工夫改善を推進できるよう学年・分掌・教科間連携を強め校内体制整備。 イ生徒情報の共有を図り、教育相談機能の強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究ワーキング設置し、5回研究授業実施。(研究授業回数を評価) 学校教育自己診断アンケート 「悩みや相談に応じてくれる」65% (H26 55%) (再掲) 	<p>→(○) 授業公開週間を新規実施。5月25~29日 研究授業2回実施。(10月19日・30日) この他校外より授業見学多数受入れました。</p> <p>→(○) 「悩みや相談に応じてくれる」60%</p>